

2022 展覧会&イベントスケジュール

3月19日(土)～4月12日(火)

「高原に立った煙～軽井沢文学と災禍～」展

東日本大震災(2011.3.11)から11年を迎えるのを機に、浅間山の噴火活動に関連する文学にあらわれた噴火・噴煙を描写した作品を集め、肉筆資料、著作、初出紙誌など文学関連資料約200点をご紹介します。全国文学館協議会・第10回共同展示(「3.11文学館からのメッセージ」)に10年連続で参加するもの。

4/13,14,15 休館

4月16日(土)～7月11日(月)

「ことばの森へ—軽井沢を愛した文学者・芸術家たちスペシャル—」展

明治以降に軽井沢を訪れ、創作活動を行った文学者・芸術家約50人の作品を、自筆資料、著作、初出紙誌、絵画など約200点で紹介。軽井沢を舞台にした詩・小説・戯曲・俳句・短歌・随筆などから、私たちの心に響く“ことば”を集め、一堂にご紹介。軽井沢の豊饒な文学の歩みを一望できます。

7/12,13,14,15 休館

7月16日(土)～10月10日(月・祝)

夏季特別展「生誕100年 ドナルド・キーン展—軽井沢と日本語の美—」(仮題)

本年は、日本文学研究者として多大な業績を残したドナルド・キーン(1922-2019)の生誕100年を迎えます。これを機に、軽井沢千ヶ滝に1964年から山荘を構え、半世紀以上にわたり軽井沢で多くの翻訳・執筆を行ったドナルド・キーンの仕事をご紹介します。ドナルド・キーンは軽井沢の「庵のような」10坪の山荘で、『徒然草』や三島由紀夫『サド侯爵夫人』の英訳、評伝『石川啄木』の執筆など、古典の世界に耽溺し、日本語の美を追求し続けました。本展では、自筆資料、著作、初出紙誌など関連資料200点を展示し、青い目の日本文学研究者の足跡を辿ります。

10/11,12,13 休館

10月14日(金)～11月30日(水)

「文学のふるさと・軽井沢—朔太郎、犀星、龍之介、辰雄…—」(仮題)

明治末期から今日に至るまでの軽井沢ゆかりの文学者約70人余の、軽井沢を舞台に描いた詩・小説・随筆・戯曲・俳句・短歌などを、著作、原稿、書簡、初出紙誌、写真、絵画、遺品等の館収蔵資料約200点をご紹介します。本年は、詩人の萩原朔太郎没後80年にあたり、「朔太郎大全2022」が全国40余の文化施設で開催されます。その共同企画に当館も参加いたします。

12/1- 休館

<イベント>

- 堀辰雄山荘 小展示:「女流博物画家 メーリアンの世界」 7/1(金)～8/28(日) ※7/13,14,15 休館
- 高原文庫の会 8月上旬
- 高原の文学サロン 8月下旬
- 文学散歩 ①新緑の信濃追分を歩く 5/21(土) 13時、②晩秋の旧軽井沢を歩く 10/22(土) 13時
- 辻邦生山荘見学会 ①6/4(土) 13時、②9/3(土) 13時、③10/1(土) 13時 ※予約開始日あり
- 軽井沢再発見講座 7月下旬

※展覧会およびイベントのスケジュールは、コロナウイルス感染防止のため、変更または中止される場合があります。お出かけ前にホームページまたはお電話でお確かめください。